



日本共産党は27・28日の両日、東京で第4回中央委員会総会を開きました。香川から中谷浩一委員長と、先の総選挙で比例候補としてたつた白川容子さんが参加しました。

日本共産党が四中総

香川から中谷委員長と白川副委員長

日本共産党は27・28日の両日、東京で第4回中央委員会総会を開きました。香川から中谷浩一委員長と、先の総選挙で比例候補としてたつた白川容子さんが参加しました。

冒頭、志位和夫中央委員会委員長は幹部会報告を行い総選挙のたたかいから、総括と教訓を引き出し、7か月後に迫った参院選での勝利、躍進のための方針を提起しました。

総選挙の結果については第一の目標「市民と野党の共闘による政権交代の実現」では、「共闘は今後の課題も残しつつも確かな成果を上げた」と述べました。第二の目標「日本共産党の躍進」については「沖縄で議席を守り抜いたのは大きな成果」としつつも比例代表で後退するという「大変に悔しくて残念な結果となりました」と語りまし



共闘について「多くの解決すべき課題が残されましたが、逆に、それは市民と野党の共闘は始まったばかりであり、共闘には大きな発展の可能性があると示すものだ」と強調。日本共産党の結果について、「4つのチェンジ」について「国民の利益にかなない、訴えが届

自治体キャラバン終了

県社保協 社会保障の充実を

香川県社会福祉推進協議会は15日から19日まで自治体キャラバンを行い県内各地の自治体を巡りました。県内の地方議員が同席参加しました。高松市では19日、陳情に対する回答を受けて、担当課との交渉があり、日本共産党から岡田まなみ、藤沢やよい両市議が参加しました。新型コロナにかかわる施策について、「介護事業所のPCR検査は入所施設だけではなく住宅に向く人にも無料でできるようにし

てほしい」「発熱で病院受診者はコロナカインフルエンザかわからない。昨年の曜日今年もインフルエンザ予防接種補助をしてほしい」などの声が介護保険・高齢者施設では「高松耳の会」から「現在1500人の署名を集め、加齢性難聴者の補聴器購入に公的補助を要望している。福祉の問題としてぜひ実施してほしい」と、子育て支援では、待機児童の解消や保育士の処遇改善、保育し

検査キットが配布されたが使い勝手が悪いなどの問題が出されました。国民健康保険では、岡田市議が「昨年度、市は一人、約1万円の保険料値上げを強行、所得2000蔓延に対し約400蔓延の保険料となり高すぎる。もっと法定外繰り入れを行うべきだ」と訴え

工学部前で学生支援

香川県の民青同盟は26日、高松市内の工学部前で学生向けの食糧支援を行いました。お米や野菜、インスタント食品が並びました。学生が一つ一つを選んでいました。



いたところでは大きな共感が広がりました」と報告、にもかかわらず残念な結果に終わったことについて「最後の1週間に共産党の政治的勢いの失速が起こりました」と指摘し「①支配勢力の共産党攻撃に反撃での弱点②選挙公示日までに党躍進の力強う流れをつくりだせなかった③積極的支持者を日常的に増やすこと、

地方をつけることーをあげました。参院選に向けては3つの柱ー「赤旗読者拡大、全国遊説、折り入って作戦」「反響攻撃にかみ合い党の綱領と理念、歴史を伝え、積極的支持者を増やす」「世代的継承」を提起しました。詳しくは党のホームページから動画でご覧いただけます。

市民プールの年度内廃止に抗議

「存続求める会」

高松市が、浜ノ町の市民プールを廃止することを表明したことに「市民プールの存続を求める会」の林俊夫代表らが26日、抗議声明を市に渡しました。ごく限られた人のみが要請できました。



抗議声明は、廃止の撤回を求めるとともに廃止を強行するならば代替施設を準備する義務が発生すると求めています。参加者は「障がい者や幼児らが安心して利用できる貴重な施設」「誰もが安心してスポーツに親しめるようにとできた施設」「施設は大的場海水浴場が廃止された代わりにできた。廃止するならば代替

施設を」など施設の重要性を指摘しました。大西秀人市長は「老朽化を理由に廃止することにした」と述べるにとどまりました。同プールは、1978年に開設。毎年夏にオープンして流れるプールなどが市民に親しまれてい

外国人入国すべて停止

小池書記局長：「当然のこと」

香川県ではコロナの流行は落ち着いた状況ですが、新たな変異株が猛威を振るいつつあります。政府は30日から、外国人の入国制限を世界に拡大しました。当面一か月ほど適用します。



日本共産党の小池書記局長は29日に記者会見し、「デルタ株の広がった教訓を踏まえ、絶対に繰り返さないために医療検査体制の確立を。新規感染者が少ない今こそ一気に進めるべきだ」と述べました。そのうえで政府の「当然の措置」と指摘し、「入国検査、空港検疫では抗原検査の精度は一定高いが、PCR検査と比べると、ウイルスが少ない場合、陰性になってしまふ問題がある」と述べ、

感度の高い検査の導入を求めました。そのうえで「変異株の急拡大を繰り返さないために、検査体制、医療体制を総点検・強化することに政府は全力を挙げるべきだ」と指摘しました。高松空港では昨年からの外国の航空会社は運休を継続しています。

望すること」などを要求しました。国や県に対しては「国立病院の機能強化」「大島青松園には内科医師がいらない。改善を」などの声を届けました。

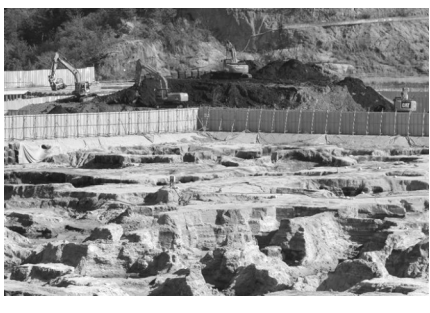
ました。今年は開業準備中に循環ろ過設備に不具合が見つかり、会として採算申し入れを行ってきましたが、市はなんだかんだと理由をつけてオープンしませんでした。そして今年「2019年に定めた安全確保上大規模な修繕が必要」な状態に該当すると判断、廃止を決めたと発表しています。岡田まなみ市議は「子

ども達のために存続を繰り返して求めてきました。今度の市長の市民プール廃止表明は許せません。12月議会に市民プール廃止の条例案が提出されたので、可決しないよう、存続のため頑張りたい」と話しています。プールは県有地。今後の跡地利用については明言を避けました。

豊島の遮水壁 来年引き抜きへ

の作業中にも新たな産業廃棄物が見つかるなど、県が予定していた期間を

豊島の産廃処理事業は、来年1月から「遮水壁」の引き抜きを始めます。遮水壁は汚染された地下水の流出を防ぐ目的で海岸に約1000枚を埋め込んでいます。引き抜けない矢板は地中の矢板に穴をあけるなどの対応を行う予定です。



日本共産党は、問題が発覚後に藤目千代子県議（当時）が豊島の現地調査を行い、その後も檜沼二県議、白川氏や、春名衆議院議員（当時）らが現地に入り調査とともに住民の要望を聞きつけてきました。不法産廃撤去

大幅に延滞する状況で処理事業が進められてきました。22年度までに事業を完了させ、整地させる予定です。